

会計、外郭団体の財務状況を網羅した登別市の連結バランスシートを作成しました【5ページの表2】。

作成の基本的条件

- 普通会計と同様、国が示した基準に沿って作成しています。
- 土地開発公社の資本金と市から土地開発公社への出資金が重複するため、調整により重複分を減額しています。
- 水道事業会計のバランスシートでは、資本に区分されている借入資本金が市債のため、負債へ移動しています。
- 各特別会計の退職給与引当金は、将来にわたって人事異動が考えられるため、これをまとめて調整欄に計上しています。

登別市土地開発公社の資産について

土地開発公社は、地域の秩序ある整備を図るため、必要な公有地となるべき土地を市に代わって先行取得することを主たる業務としています。しかし、土地開発公社が先行取得した土地を市が直ちに買い取る財政状況になかったため、長く保有せざるを得ませんでした。

その結果、経過利息が膨らみ、帳簿上の価格が高くなってきています。これらは、将来、市が高い帳簿上

の価格で買い取らなければならない、実質上の市の債務であることから、今回連結バランスシートに計上しました。

同公社が保有している土地については、路線価を基礎とし、近隣の土地価格を考慮した固定資産税で用いる土地評価の手法で土地価格を評価して、帳簿上の価格との差額を計算しました。土地の形状などは考慮していませんので、多少の誤差が生じますが、おおむね実態を反映しているものと考えます。

帳簿上の価格は約27億6千821万円ありますが、評価額は10億2千110万円となりました。固定資産税の評価は時価の7割を用途としていることから、0・7で割り戻した14億5千872万円が計算上の時価ということになります。

市は、時価が14億5千872万円しかない土地を27億6千821万円で買い取らなければならず、その差額13億949万円がいわゆる含み損ということになります。

長引く不況の中にあつて、市には直ちに土地を買い取ることはできませんが、毎年の利息相当分の土地を購入することによって、これ以上、同公社の債務が膨らまないように努めています。

また、土地開発公社でも市のほかに買い手を探し、売却するよう努めています。

連結バランスシートをみてみよう

資産の部

公共資産が約881億5千196万円、投資等が32億3千503万円、流動資産が57億8千666万円です。水道事業会計と下水道会計では公共資産が、国民健康保険会計では流動資産が大きくなっています。

なお、未収金は普通会計と同様の調整を行い、土地開発公社の資産は含み損を減額して計上しています。

負債の部

水道事業会計の50億579万円の借入資本金は負債に計上換えを行います。下水道会計では154億1千725万円の市債残高が負債に計上されます。土地開発公社の長期借入金が27億4千600万円あります。負債の合計は566億7千828万円です。

正味財産の部

資産から負債を差し引いた正味財産は、404億9千537万円です。土地開発公社の正味財産は、12億2千956万円のマイナスとなり、登別市全体の正味財産を引き下げています。

市民一人当たりでみてみると

バランスシートを説明してきまし

たが、億という単位は、大き過ぎてピンときませんね。

より市民のみなさんに分かるようバランスシートの数字を市民一人当たりで計算してみましたので、ご覧ください【7ページの表3】。

普通会計では資産が約3万円、負債が約2万円増えています。各会計、外郭団体の財務状況を網羅した連結では約178万円の資産があり、今後返済していかねばならない負債は約104万円。すでに支払いが終わった正味財産は約74万円です。

今後の取り組み

市は、これまで、さまざまな方法で市の財政状況を分析し、市民のみなさんにお知らせしてきました。

今回、特集でバランスシートを紹介するにあたっては、より市の財務の実態が明らかになるよう昨年度にお知らせしたものに改良を加えるとともに、各会計と外郭団体の財務状況を網羅した連結バランスシートを作成しました。

しかし、地方自治体のバランスシート導入は、まだ始まったばかりで、作成にあたっては困難な点が多く、専門用語も多いなど、市民のみなさんには、なじみにくいところも多々あるかと思えます。

今後も、調査・検討し、改良を行いつつながら、より分かりやすい財政状況の提供に努めます。